令和4年度 総括評価表

（評定）A：十分達成できた，B：概ね達成できた，C：達成できなかった

徳島県立城ノ内中等教育学校（前期課程）

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価（　p）は昨年度との比較で，増減ﾎﾟｲﾝﾄを表す		学校関係者の意見	
			評価指標による達成度	総合評価		
リーディングハイスクール事業の推進① 中高一貫教育の推進	（全校レベル） 中高一貫教育高のメリットを最大限に生かし，本校の活性化に役立てる。 （下位組織レベル） 〇前期，後期・高校合同での月例運営委員会や職員会議の活性化。 〇前期生と後期・高校生の良好な関係構築。 〇PTA活動の充実。	評価指標 〇「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が90%以上。 〇「勉学・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が90%以上。 〇「前期生と後期・高校生の関係は良好である」と答えた生徒が70%以上。 〇「前期，後期・高校合同のPTA活動や専門部会は活発である」と答えた保護者が70%以上。 活動計画 ①前期，後期・高校職員が合同で行う会議は，年間25回以上，中等教育学校への完全移行に向けて計画準備を進める。 ②前期，後期・高校合同の行事・作業・部活動・交流を行う機会を積極的に創設し，連携の深まる内容とする。 ③PTA役員会を必要に応じて適宜開催する。	評価指標による達成度 〇「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒90%（+1p）・保護者92%（±0p）。 〇「勉学・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒89%（−3p）・保護者86%（−2p）。 〇「前期生と後期・高校生の関係は良好である」と答えた生徒80%（+8p）。 〇「前期，後期・高校合同のPTA活動や専門部会は活発である」と答えた保護者73%（+8p）。 活動計画の実施状況 ①前期，後期・高校職員合同の会議を31回（運営委員会12回，中等教育学校移行全体会2回，人権教育研修会・ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ研修会など職員会議17回），合同のPTA役員会を4 回開催し，共通理解を図った。 ②生徒会活動をはじめ，学校行事において，計画段階から前期，後期・高校が連携し，実施する機会が増えた。特に，城ノ内祭や防災訓練などの学校行事，部活動（弓道部や吹奏楽部，演劇部，フェンシング部等）など異年齢での学び合いを行った。また，後期生が前期生の抱える悩みに答える機会をつくるなど，より一層前期，後期・高校の協力と連携が深まった。 ③前期，後期・高校合同PTA役員会を年4回実施し，各課題について協議した。	（評定） A （所見） 豊かな教育活動については，生徒・保護者とも評価指標を下回った。その要因として，今年度もコロナ禍により，様々な教育活動の制限が長引いていることが考えられる。教育活動全般に対する満足度については，生徒・保護者とも評価指標を上回った。行事等は，開催方法等を工夫するなどして可能な限り実施したことが要因として考えられる。中等教育学校への完全移行に向けて計画準備を進め，共同体制の確立を図っている。 前期生と後期・高校生が，部活動や生徒会活動等普段の生活の中で，ともに活動することが当たり前になりつつあり，生徒の満足度も高い。中等教育学校としての一体感が醸成されている。 「前期，後期・高校合同のPTA活動や専門部会は活発である」と答えた保護者は昨年度より8ポイント増加した。今年度は，コロナ禍の中であっても少しずつできることを各専門部で話し合い，活動を行ったことが要因として考えられる。	教育活動全般に満足しているという項目の数値が高く，また他の項目においても昨年度比でプラス回答になっており，素晴らしい結果である。 前期生に対して後期生が助言する試みなどは良いことであり，さらに進めてほしい。 コロナ禍で様々な行事等を実施できなかったことは，今後にも大変な影響を及ぼす。いろいろな行事の復活とともに，新たなものを企画し実施するつもりで学校運営をお願いしたい。	〇前期，後期合同の教科会，各課会議を継続して行うことで，中高一貫のメリットをさらに高めていく。また，全ての教職員が，スクール・ミッション，スクール・ポリシーの実現に向けて，緊密に連携を図るための組織づくりを行う。教職員間の連携をより強め，全ての教職員が生徒の発達段階を踏まえた指導のあり方を共有する。 〇生活面だけではなく，学習面においても前期，後期が協働できる機会を設定し，関係性をさらに深めていく。後期生から前期生にアドバイスするような機会も充実させる。 〇PTA活動においても，前期，後期が連携し，風通しのよい関係を構築しながら共通理解を図り，新たな活動を実践する。次年度の各専門部は，１年生から6年生まで合同で行うので，各部の特性を生かしながら状況に応じた活動ができるように意思疎通を心がけ，課題に対しては臨機応変に対応する。
リーディングハイスクール事業の推進② 確かな学力と進路観の育成	（全校レベル） 授業の充実改善に積極的に取り組み，きめ細かな進路指導を行う。 （下位組織レベル） 〇研究授業・授業研究会の実施。 〇各種検定への参加。 〇外部講師を活用した授業の実施。 〇進路説明会の充実	評価指標 〇「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 〇「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者・教職員が85%以上。 〇「生徒は基礎的・基本的学力が身についている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 〇「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒・保護者が80%以上。 活動計画 ①研究授業・授業研究会を前期，後期・高校合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③外部講師を活用した授業を年間10回以上実施し，効果を検討する。 ④各種検定の受検の意義について生徒に話す機会を設け，各種検定を積極的に実施する。	評価指標による達成度 〇「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒94%（+5p）・保護者89%（+6p）・教職員96%（−4p）。 〇「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者90%（+4p）・教職員100%（±0p）。 〇「生徒は基礎的・基本的学力が身についている」と答えた生徒93%（+3p）・保護者81%（+1p）・教職員100%（+8p）。 〇「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒86%（+2p）・保護者90%（−3p）。 活動計画の実施状況 ①主体的・対話的で深い学びを可能とする研究授業・授業研究会を前期，後期・高校合同で年13回実施した。 ②授業評価を年2回実施した。 ③総合的な学習の時間，道徳の時間を中心に，外部講師を活用した授業を年15回（オンライン授業を3回含む）実施した。 ④漢字検定（2回），数学検定（2回），英語検定（1回）を実施した。	（評定） A （所見） 一人一台端末の活用方法を工夫しながらの公開授業や相互参観授業の実施，前期，後期・高校合同の教科会を開き，6年間を見通した教育課程の工夫をするなど来年度に向けた話し合いの機会を持てた。 授業評価について，評価指標は上回っているものの，教職員・生徒・保護者の数値に差が見られることから，各種事業における「取組の成果と課題」を検証し，次年度の改善につなげていきたい。 外部講師を活用した取組は，Zoom配信などのオンライン授業を取り入れることで，距離に関係なく生徒の興味・関心に応じた講師を招聘することができ，生徒の学びを深めることができた。 各種検定は，生徒の学習意欲向上に役立っていると考えられるため，今後も推進していきたい。	平均的に高評価であり，特に学力面での生徒・保護者の満足度がきわめて高くなっていることは，学校の懸命な取組をきちんと評価している結果と考えられる。 わかる授業を目指した授業の工夫については，引き続きICTの活用などについて検討していってほしい。	〇授業評価は継続して行い，形成的評価を実施するなど，PDCAサイクルで学習活動を充実させ授業改善につなげる。また，「大学連携強化！学校力拠点校事業」などを活用し，公開授業や相互参観授業等を充実させ，系統的な城ノ内ならではの学びへの体制づくりを行う。ICTのより有効な活用についても工夫・改善に取り組む。 〇外部講師活用については，ICTを有効活用しながらも，直接学ぶことができる機会を増やす。生徒の心に訴えかけたり，これからの人生を深く考えさせたりすることができる講義・授業を実施することで，生徒の意欲や関心を高め，学んだことを実践しようとする力を身につけさせる。 〇各種検定の受検の意義について生徒に周知するとともに，受検者，合格者が増加するような支援を行う。

令和4年度 総括評価表　　（評定）A：十分達成できた，B：概ね達成できた，C：達成できなかった　　徳島県立城ノ内中等教育学校（前期課程）

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価（　p）は昨年度との比較で，増減ﾎﾟｲﾝﾄを表す		学校関係者の意見	
人権教育の推進	（全校レベル） すべての教育活動で人権教育の推進を図る。 （下位組織レベル） 〇ホームルーム活動や学校行事の充実を図る。	評価指標 〇「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 〇「生徒は自分を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 〇「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 活動計画 ①人権学習についての研究授業，事前研究会を実施する。 ②人権意見発表会を実施する。 ③人権に関する講演会を実施する。 ④職員研修を年3回実施する。	評価指標による達成度 〇「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒88%（+3p）・保護者91%（+4p）・教職員96%（+4p）。 〇「生徒は自分を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒90%（+2p）・保護者91%（+3p）・教職員89%（±0p）。 〇「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒86%（+8p）・保護者88%（±0p）・教職員92%（+3p）。 活動計画の実施状況 ①前期の全教職員が参観する人権学習研究授業（大研）を1学年で行った。2、3学年でも学年ごとの研究授業を行った。事前研修、授業研究会を行い，人権学習と生徒の生活が結びつくような取組を行った。 ②各学年ごとに，様々な個別人権課題を取り上げた意見発表を行った。 ③1,3学年で人権講演会を実施した。事後指導の中で学んだことについて共有し，深めることができた。 ④定例職員会の中での研修や中高合同の研修など，計5回の研修を行った。	総合評価 （評定） A （所見） 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた割合は、生徒・保護者・教職員とも増加している。今後も学習面，部活動，生活指導などあらゆる場面で生徒の思いを大切にした教育が必要である。 また，「生徒は他者を大切に思う態度が育っている」と答えた割合が、生徒・教職員で増加している。他者を大切にすることが自分を大切にすることにつながることを定着させ，自他を大切にすると思う選択ができるような生徒を育てていきたい。「教える」から「育てる」に教職員の意識改革も必要だと感じる。	防災を絡めて人権教育を行うことは良い視点である。あらゆる多様性を包摂する方向へ拡げてほしい。 評価が高いことはそれに見合った教育がなされているからであり，安心した。教育の成果で行動に変容をもたらしていることは素晴らしいことである。	〇人権学習で学んだことを，生徒の生き方につなげるためには，日常生活の中の様々な場面で生徒に意識させ，定着させていく必要がある。何よりもHR・学年・学校のあたたかい雰囲気作りが重要である。普段の声かけを工夫したり，掲示物，配布物等を活用することで，学んだことを生徒の生活に反映させる。 〇自他を大切にする生徒を育んでいくために，日々どのような指導に取り組むべきか，教職員の認識や理解を深めていく必要がある。職員研修や授業研究を積極的に実施し，共通理解のもとですべての教育活動を行っていく。
基本的生活習慣の確立と道徳性の涵養	（全校レベル） 学校は家庭と連携し，生徒の基本的生活習慣の確立を図る。 いじめを絶対許さない。 安全教育を徹底し，事故防止に努める。 SNSでのトラブルをなくす。 （下位組織レベル） 〇「時間厳守」の徹底。 〇「挨拶の励行」の徹底。 〇「服装頭髪」指導の徹底。 〇積極的ないじめやSNSのトラブルの認知と対応。 〇交通ルールや交通マナーの遵守に向けての取組推進。	評価指標 〇「学校は家庭と連携し，生徒の基本的生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が80%以上。 〇「生徒は学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 〇「生徒は挨拶ができている」と答えた生徒・教職員が75%以上。 〇「生徒は服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 〇「生徒は交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が75%以上。 活動計画 ①校内外での社会マナーの指導をする。 ②始業前着席を励行する。 ③あいさつ運動を実施する。 ④服装頭髪検査を定期的に実施する。 ⑤毎月1回交通マナーアップ運動を実施する。 ⑥交通安全教室を実施し安全教育の徹底を図る。 ⑦学校生活に関するアンケート（いじめを含む）を年2回実施する。 ⑧携帯やスマートフォンによるSNSの使い方についての指導をする。	評価指標による達成度 〇「学校は家庭と連携し，生徒の基本的生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者84%（+9p）・教職員100%（+27p）。 〇「生徒は学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒83%（+8p）・保護者92%（+2p）・教職員85%（+9p）。 〇「生徒は挨拶ができている」と答えた生徒88%（+13p）・教職員69%（+15p）。 〇「生徒は服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒95%（+15p）・保護者94%（−3p）・教職員85%（+6p）。 〇「生徒は交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒91%（+20p）・教職員77%（+17p）。 活動計画の実施状況 ①毎朝，交通委員による駐輪場の整理整頓を実施した。各行事を通じて社会マナーについて話をした。 ②教員が始業前に授業場所へ行くとともに，生活委員が2分前着席を呼びかけた。 ③毎朝の教職員，生徒会役員，生活委員などによるあいさつ運動を実施した。 ④日常的に，また学年等の集会時に，頭髪服装について指導をした。 ⑤登校時，毎月1回生徒指導課の教員が校外で立哨指導を実施した。 ⑥日常的に，また学年等の集会時に，自転車の乗り方や安全についての話をした。 ⑦学期に1回を基本とし適宜アンケート調査を実施し，いじめ等の問題の早期発見や生徒理解に努めた。 ⑧8月にSNS等の使用のルールや心構えについて家族で話し合って決め，シートに記入してもらった。12月には振り返りシートを実施，使い方の見直しを行った。	総合評価 （評定） B （所見） 生徒の基本的生活習慣の確立については，保護者・教職員とも昨年より大きく向上している。今後も学校・家庭の連携に努めたい。 時間を守ることについても，生徒・保護者・教職員とも昨年よりポイントが増加し，評価指標を上回った。学校生活，社会生活の上で大切な時間に対しての意識をより一層高めていきたい。 挨拶についても，ポイントが大幅に増加した。あいさつ運動などの取組の成果もあると考えられる。 校則を守ることについても，評価指標を上回っており，頭髪服装などについて正しくしようとする意識は高いと思われる。 交通ルールや交通マナーを守ることについても，生徒・教職員とも昨年より大きく向上し，評価指標を上回っている。それでも，地域の方や自動車運転者の方からはマナーの悪さが指摘されることが少なくない。今後も，学校周辺の道路事情や自動車運転者側からの視点などを説明し，ルール遵守，マナー向上につなげたい。 いじめ防止については，アンケート調査実施等により早期発見や生徒理解に努めているが，授業中や休み時間等の観察や教職員間での情報共有などを徹底していく。	挨拶から1日が始まる運動が実施され，達成度においても昨年度から大幅にポイントアップしていることは素晴らしい。今後も続けてほしい。 教員が挨拶することを大切にしてほしい。	〇服装・頭髪等の指導については，全教職員が共通認識を持ち，徹底してあたる。特に生徒指導課を中心に，学年間での連携をとった指導を強化する。 〇挨拶の大切さや交通ルールの遵守など日々の生活について，あらゆる機会を捉えて指導する。また，家庭との連携も図りながら，人格形成に努めていく。集団生活における規律ある行動や時間の遵守について，生徒会活動など生徒の自発的な活動から促せるよう，教職員自身が率先し，支援・指導していく。 〇いじめやSNSのトラブル等に関しては，今後もアンケートや個人面談等を活用するとともに，家庭との連携のもと全教員で早期発見・適切な対応に努める。

令和4年度 総括評価表　　（評定）A：十分達成できた，B：概ね達成できた，C：達成できなかった　　徳島県立城ノ内中等教育学校（前期課程）

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価（　p）は昨年度との比較で，増減ﾎﾟｲﾝﾄを表す		学校関係者の意見	
本県の重要課題を見据えた教育の推進	（全校レベル） 防災教育を徹底するとともに，主権者教育と消費者教育の推進に努める。 （下位組織レベル） 〇防災意識の高揚に努め，防災への取組を推進する。 〇関連授業や特別活動を通して，主権者意識と消費者意識を高める教育を充実する。 〇勤務の効率化を推進する。	評価指標 〇「学校は防災意識の高揚に努めるとともに，防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 〇「学校は授業やホームルーム活動等の中で，政治や選挙活動の話題を取り上げ，政治に関する興味関心を高める教育ができている」と答えた生徒・教職員が70%以上。 〇「授業や総合的な学習の時間を通して，エシカル消費への関心や消費行動の質が高まった」と答えた生徒が70%以上。 〇「教職員は時間外勤務の縮減を目指し，担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる。」と答えた教職員が60%以上 活動計画 ①防災避難訓練（火災・地震・津波）を年2回実施する。 ②年2回以上，地域の方と連絡を取り共同で活動する。 ③災害時における家庭との連絡体制を，より強化する。 ④社会科の授業を中心として，模擬選挙などを通して選挙制度や政治参加の意義について話し合いを行う。 ⑤エシカル消費の実戦に向けて，具体的な消費行動について，調べ学習や話し合い活動を行う。 ⑥勤務の効率化を促し，業務改善に取り組む。	評価指標による達成度 〇「学校は防災意識の高揚に努めるとともに，防災への取組を推進している」と答えた生徒91%（+5p）・保護者90%（+3p）・教職員92%（−8p）。 〇「学校は授業やHR等の中で，政治や選挙活動の話題を取り上げ，政治に関する興味関心を高める教育ができている」と答えた生徒71%（+9p）・教職員58%（−2p）。 〇「授業や総合的な学習の時間を通して，エシカル消費への関心や消費行動の質が高まった」と答えた生徒70%（+10p）。 〇「教職員は時間外勤務の縮減を目指し，担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる。」と答えた教職員39%（−3p）。 活動計画の実施状況 ①第1回，第2回とそれぞれ経路の確認や非常事態への対応など明確な目的意識をもって実施することができた。 ②本年度は，地域の人々や保育園と合同で避難訓練を実施することができた。また，地域の防災の専門家に来てもらい，生徒に勉強会の機会を提供することができた。 ③避難訓練においては，人の安全の確保のみならず，連絡手段のための情報を確保して避難する練習を教員間で行うことができた。 ④公民科の授業を中心に，模擬選挙の実施・日本の財政再建問題など主権者意識を高める取り組みを行った。 ⑤技術・家庭科（家庭分野）の授業で，持続可能な社会の構築などの視点から，SDGsの取組と関連を図りながら，消費者として責任ある消費行動を考えることができた。 ⑥勤務の効率化，業務改善は不十分だった。	総合評価 （評定） B （所見） 本年度は，避難訓練や防災に関する学習会，小学校や保育園との防災についての意見交換会など昨年以上に地域の人々と連携し防災教育を進めることができた。本年度の活動を通して，生徒たちはより強い当事者意識を持つようになったと思われる。 政治に関する興味関心を高める教育については，生徒は昨年度よりポイントが上がり評価指標を上回ったが，教職員は昨年度より下がり評価指標を下回っている。HR担任や他教科の担当者との連携を図り，意識を高めていく必要がある。 エシカル消費については，他教科との関連を図りながら，具体的な消費行動を考え，話し合い，発表し合う活動を通して倫理的な消費への意識が高まった。しかし，実生活での実践につなげるにはまだ不十分な点もある。 教職員の業務改善については，昨年度より3ポイント下がり，評価指標の目標には届いていない。負担感を感じている業務として，昨年度は「教科指導」が25.0%，「校務分掌」が54.2%，「学級経営」が4.2%，「部活動」が16.7%だったが，今年は「教科指導」が8.3%，「校務分掌」が41.7%，「学級経営」が29.2%，「部活動」が20.8%だった。業務内容の見直しを図るとともに，組織で効率化を図る体制を整える必要がある。	防災教育が非常に充実してると感じる。全県一区の中等教育学校が地域の中核として防災活動に取り組むこと，地域の子ども園や住民とともに活動することは素晴らしいことであり，今後も継続してほしい。 業務改善において，最も難しいのは意識改革である。姿勢を問うた項目において，少しずつでも改善されているのは良いことである。外部人材活用やICT活用など有効な対処がなされており，今後の業務改善にも生かしてほしい。 学校運営協議会などを活用して大胆な業務改善を行うのも有効である。	〇炊き出し訓練や，防災クラブの活動など様々な場面で地域の人々との連携を強化し，開かれた学校運営を進める。 〇防災学習を有志対象に実施する際に，生徒の参加率がまだまだ低いため，その割合を高めるために，防災意識の高揚を図る。 〇主権者意識を高める教育については，社会科はもちろん他の教科の授業やHR活動・総合学習で，生徒に政治に参加する意義や目的を教えていけるよう，HR担任や他教科の担当者と連携を図る。 〇消費者意識を高める教育については，総合的な学習の時間にエシカル消費と関連のある身近な事例を取り上げたり，後期課程の学習活動と連携してエシカル消費につながる実体験をさせたりすることで消費生活の意識を高め，実践へとつなげる。 〇教職員の業務改善への意識・姿勢の向上に向けて個々と組織の両面で，業務の見直しや改善に向けた取組を検証し，共通理解を図っていく。また，学びサポーターや部活動外部指導者など外部人材を積極的に活用していく。
環境教育の推進	（全校レベル） 環境教育への取組を推進し，学習の場にふさわしい環境を整える。 （下位組織レベル） 〇清掃に積極的に取組む。 〇ゴミの分別や節電・節水に取組む。	評価指標 〇「生徒は清掃に積極的に取り組むことができている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 〇「生徒はゴミの分別や節電・節水に取り組めている」と答えた生徒・教職員が80%以上。 活動計画 ①日頃からゴミの分別を推進する。 ②使用水量，使用電力の推移をグラフ化して掲示し，節水・節電への意識を高める。 ③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動に，年2回以上取り組む。	評価指標による達成度 〇「生徒は清掃に積極的に取り組むことができている」と答えた生徒89%（+5p）・保護者85%（−2p）・教職員89%（+24p）。 〇「生徒はゴミの分別や節電・節水に取り組めている」と答えた生徒92%（+8p）・教職員85%（±0p）。 活動計画の実施状況 ①日々の清掃活動を中心に，ゴミの分別に取り組むことができた。 ②昨年度に引き続き，新型コロナウイルス感染症による影響で，手洗いでの水量の使用や，換気をしながらの冷暖房により十分に取り組むことはできなかった。 ③昨年度に引き続き，全体での実施はできなかったが，有志を募ったり，学年単位に分散することで，2回実施できた。	総合評価 （評定） B （所見） ゴミの分別については，日頃から十分に取り組めている。 節水・節電については，感染症対策としての換気や手洗い，消毒を十分に行いながらであったため，意識高揚は不十分であった。 清掃活動については，全体での実施は困難であったが，学年別・クラス別に分散するなどの工夫をして可能な範囲で取り組むことができた。	コロナ禍のために実施できなくなっていた清掃ボランティア活動等が，工夫しながら再開されつつある。今後も継続的に取り組んでいただきたい。	〇感染症対策をしつつ，節電節水ができる場面を生徒たち自らが考え，行動する学習を取り入れる。 〇節電節水がなぜ必要なのかについて生徒が自ら考える学習を取り入れる。

令和4年度 総括評価表　　（評定）A：十分達成できた，B：概ね達成できた，C：達成できなかった　　徳島県立城ノ内中等教育学校（前期課程）

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価　（　p）は昨年度との比較で，増減ﾎﾟｲﾝﾄを表す		学校関係者の意見	
			評価指標による達成度	総合評価		
特別活動の活性化	（全校レベル） 学校行事，部活動等の特別活動を充実させ，学校全体を活性化する。 （下位組織レベル） 〇学校行事の内容の充実を図る。 〇部活動を活発にする。 〇生徒会・専門委員会活動の充実を図る。	評価指標 〇「学校行事は充実しており，生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 〇「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 〇「生徒会・専門委員会は活発に活動している」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 活動計画 ①学校行事は生徒が主体的に運営に携われるよう実施する。 ②部活動が活性化するよう広報やPRに努力する。 ③専門委員会の話し合いを月に1回行い，これまで以上に生徒が自覚と責任をもって活動できるようにする。	評価指標による達成度 〇「学校行事は充実しており，生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒90%（+3p）・保護者90%（+5p）・教職員92%（+9p）。 〇「部活動は活発である」と答えた生徒94%（+2p）・保護者86%（+1p）・教職員85%（±0p）。 〇「生徒会・専門委員会は活発に活動している」と答えた生徒86%（±0p）・保護者88%（+2p）・教職員89%（+4p）。 活動計画の実施状況 ①各行事で生徒会執行部や委員会の生徒が中心となって行うことができた。後期課程生徒会とも連携し，学校行事の準備を行うことができた。 ②部活動の大会等の様子をホームページに掲載し，広報活動をすることができた。 ③生徒会執行部や各委員会では，それぞれの役割を計画的に実施し，充実した活動を行った。今年度は専門委員会を9回開催した。	（評定） A （所見） 特色ある学校行事，部活動，生徒会活動等に熱心に取り組めているので，生徒，保護者，教職員からの評価は高く，数値でも昨年度を上回っている。 今年度も感染症の影響で中止になった学校行事も多くあったが，開催した行事では感染症対策に十分配慮し，生徒はできる範囲の中で工夫して取り組むことができた。 部活動，生徒会・専門委員会活動では，感染症対策についてもしっかり考え，呼びかけも効果的だった。 生徒会中心に制作した学校紹介動画も，学校紹介に役立った。	部活動に関して，外部人材の活用は，有効である。 「部活動は活発である」の設問に対する生徒・保護者と教職員の意識の乖離は，本校における部活動がどうあるべきかという本質的な問題であり，「生徒のための部活動」という観点で考える必要がある。 中学校・高等学校から中等教育学校への移行期に生じる問題は様々あり，今後を冷静に見極めていく必要がある。	〇各行事について，感染防止対策等の状況を見守りながら，より効率的・効果的に実施できるように工夫する。 〇時間が限られた中で，部活動に集中して取り組めるように，放課後の時間，また練習方法について調整，工夫をする。また，活動状況や試合の結果など積極的にホームページを更新する。 〇学校行事の際の生徒の自主的な参画について，生徒会，委員会活動を中心に更に推進する。後期課程とも連携し，交流を深める。
開かれた学校づくりの推進と郷土愛を育む教育の推進	（全校レベル） ホームページ，学校公開など広報活動を充実させる。 地域資源を生かした多様な体験・交流活動を行う。 （下位組織レベル） 〇ホームページの更新回数を増やす。 〇学校公開の機会の充実。 〇地域に根ざした体験活動・行事の実施。	評価指標 〇「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者・教職員が80%以上。 〇「学校公開の日（参観日）は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が80%以上。 〇「地域資源を活用した行事（阿波踊り，総学発表会等）が充実している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 〇「夏期講座（うっちーな体験塾）は本校の特色を理解してもらうことに役立っている。」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 活動計画 ①ホームページの更新に全ての教員が関わり，週2回以上更新する。 ②スクールガイドを充実させる。 ③学校公開は，本校を理解してもらえるよう工夫する。 ④阿波踊り・総学発表会等の地域資源を生かした多様な行事を実施する。 ⑤夏期講座（うっちーな体験塾）を充実させる。	評価指標による達成度 〇「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者87%（+5p）・教職員96%（±0p）。 〇「学校公開の日（参観日）は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者85%（−8p）・教職員96%（+7p）。 〇「地域資源を活用した行事（阿波踊り，総学発表会等）が充実している」と答えた生徒77%（+5p）・保護者76%（+8p）・教職員92%（+17p）。 〇「夏期講座（うっちーな体験塾）は本校の特色を理解してもらうことに役立っている。」と答えた生徒88%（+11p）・保護者89%（+5p）・教職員96%（+7p）。 活動計画の実施状況 ①部活動の活動状況など，週2回以上更新している。ホームページの年間アクセス数は2,298,784回[2月現在]。昨年の同時期が823,949回であり，2.79倍に増加した。 ②小学生が親しみを持つことのできる表紙や紙面，6年間を意識した構成に取り組んだ。また，各小学校に配布するなど，スクールガイドを用いた広報活動にも取り組んだ。 ③文化祭は非公開となったが，参観日は実施し，制限が多い中でも，工夫した取組ができた。 ④新型コロナウイルス感染症予防対策をしながら，昨年度よりは多くの行事を行うことができた。 ⑤感染症対策をしながら，各講座で趣向を凝らした楽しい体験的活動を計画・実施できた。大学の先生による講義・体験活動や後期課程の先生との連携講座など内容は多岐にわたった。	（評定） B （所見） 本校の教育活動を理解いただくために，ホームページが大きな役割を担っており，昨年度のリニューアル以来，さまざまな情報を更新している。年間アクセス数は昨年度の2.79倍に増加した。 スクールガイドは，表紙・紙面・構成などの工夫により，本校の特色をわかりやすくコンパクトにまとめることができている。各小学校への配布など，入学者募集の面でも有効的に活用することができた。 今年度も文化祭は非公開になったが，保護者対象の参観日においてHRアワーショーの動画を放映したり，PTAの発行するうっちーな通信等で学校や生徒の様子を発信することができた。 新型コロナウイルス感染症対策をし，阿波踊り実習を行うことができた。しかし，外部団体との交流等の特色ある学校行事は実施できていない。 夏期講座（うっちーな体験塾）は，感染症対策から講座の制限があったが，多くの講座を開講することができ，特色ある学校行事として定着している。	ホームページのアクセス数が大幅に増加していることと，週2回以上の更新を継続していることは素晴らしいことである。今後もこの状況が継続されるよう努めてほしい。	〇各課及び各部活動に依頼して，ホームページの記載内容を定期的に見直してもらうとともに，最新記事の掲載を促す。 〇スクールガイドにおいて，中等教育学校が完成し，より系統性のある教育を意識した紙面作りに取り組む。 〇文化祭の公開については，引き続き生徒の体験活動を取り入れた内容とし，学習の成果が周囲から理解してもらえるよう発表方法も工夫する。また，本校の教育活動を直接理解してもらえる行事について，可能な範囲で公開できるよう，開催方法や内容を工夫し，充実を図る。 〇ICTを有効活用するなど実施方法を工夫しながら外部団体との交流等特色ある行事を実施する。 〇夏期講座（うっちーな体験塾）は，教職員の負担を考慮しながら，新たな講師の人材確保や講座開設を行い，さらに講座を充実させ，本校の特色ある学校行事として行っていく。